

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成26年12月18日(2014.12.18)

【公開番号】特開2013-120500(P2013-120500A)

【公開日】平成25年6月17日(2013.6.17)

【年通号数】公開・登録公報2013-031

【出願番号】特願2011-268367(P2011-268367)

【国際特許分類】

G 0 6 F 12/00 (2006.01)

G 0 6 F 21/10 (2013.01)

G 0 6 F 21/62 (2013.01)

【F I】

G 0 6 F 12/00 5 4 5 A

G 0 6 F 21/22 1 1 0 K

G 0 6 F 21/24 1 6 5 B

G 0 6 F 12/00 5 3 3 J

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月5日(2014.11.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明の目的を達成するために、例えば、本発明の情報処理装置は、メモリ内のコンテンツデータを管理する管理手段と、

外部装置に接続された可搬型記憶媒体内のディレクトリと前記メモリ内のディレクトリとの対応を設定するために前記外部装置と通信する通信手段と、

前記可搬型記憶媒体を接続する接続手段と、

前記接続手段に接続された前記可搬型記憶媒体に記録されている変更ログ情報にしたがって、前記メモリ内のディレクトリ構成を変更する変更手段と

を備えることを特徴とする。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

情報処理装置であって、

メモリ内のコンテンツデータを管理する管理手段と、

外部装置に接続された可搬型記憶媒体内のディレクトリと前記メモリ内のディレクトリとの対応を設定するために前記外部装置と通信する通信手段と、

前記可搬型記憶媒体を接続する接続手段と、

前記接続手段に接続された前記可搬型記憶媒体に記録されている変更ログ情報にしたがって、前記メモリ内のディレクトリ構成を変更する変更手段と

を備えることを特徴とする情報処理装置。

【請求項2】

前記可搬型記憶媒体に記録されているコンテンツデータを該可搬型記憶媒体から読み出し、該読み出したコンテンツデータを前記メモリに登録する登録手段を更に備えることを特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記管理手段は、コンテンツデータと、ネットワークを介して該コンテンツデータにアクセスするために使用するアドレスと、を前記メモリ内で管理しており、

前記可搬型記憶媒体には、前記外部装置が取得したコンテンツデータと、該コンテンツデータが格納されたディレクトリ構成と、ネットワークを介して該コンテンツデータにアクセスするために使用するアドレスと、が記録されており、

前記登録手段は、前記可搬型記憶媒体に記録されているコンテンツデータと、該コンテンツデータのアドレスと、を前記可搬型記憶媒体から読み出して前記メモリに登録することを特徴とする請求項2に記載の情報処理装置。

【請求項4】

前記登録手段は、前記可搬型記憶媒体に記録されているコンテンツデータのうち、まだ前記メモリに登録されていないコンテンツデータを前記可搬型記憶媒体から読み出し、該読み出したコンテンツデータを前記メモリに登録することを特徴とする請求項2又は3に記載の情報処理装置。

【請求項5】

前記通信手段は、UPnPデバイスである前記情報処理装置と前記外部装置の間でコンテンツデータの同期をはかるための前記対応を設定するために前記外部装置と通信することを特徴とする請求項1乃至4の何れか1項に記載の情報処理装置。

【請求項6】

可搬型記憶媒体を接続可能な情報処理装置が行う情報処理方法であって、

前記情報処理装置の管理手段が、メモリ内のコンテンツデータを管理する管理工程と、前記情報処理装置の通信手段が、外部装置に接続された可搬型記憶媒体内のディレクトリと前記メモリ内のディレクトリとの対応を設定するために前記外部装置と通信する通信工程と、

前記情報処理装置の変更手段が、前記情報処理装置に接続された前記可搬型記憶媒体に記録されている変更ログ情報にしたがって、前記メモリ内のディレクトリ構成を変更する変更工程と

を備えることを特徴とする情報処理方法。

【請求項7】

前記情報処理装置の登録手段が、前記可搬型記憶媒体に記録されているコンテンツデータを該可搬型記憶媒体から読み出し、該読み出したコンテンツデータを前記メモリに登録する登録工程

を更に備えることを特徴とする請求項6に記載の情報処理方法。

【請求項8】

前記通信工程では、UPnPデバイスである前記情報処理装置と前記外部装置の間でコンテンツデータの同期をはかるための前記対応を設定するために前記外部装置と通信することを特徴とする請求項6又は7に記載の情報処理方法。

【請求項9】

コンピュータを、請求項1乃至5の何れか1項に記載の情報処理装置の各手段として機能させるためのコンピュータプログラム。